

SHINGON HORONIC

色

IRO

は

WA

匂

NIO

へ

E

ど

DO

II



PHOTO F.YOSHINORI

特集 寺子屋真言童子 邦楽を楽しむ

平成十九年春 巻八



PHOTO F.YOSHINORI

人花を見る時

花また人を見る

(人見花 花見人)

桜の季節になります

山がほんのり色付いてから

満山の花が咲き、そして

見事に散る散り際まで

桜は眼を楽しませてくれます

人が花を見る時

花もまたその人を見るといいいます

花と人が美しく響きあう時

社会に善き気配が拡がります

寺子屋真言童子

邦楽を楽しむ

3



道しるべ 公平ということ

11



心の絵ことば 9

お大師さまの言葉

善人の用心は

他を先とし己を後とす

情報コーナー



13

14



邦楽とは

邦楽というと日本の音楽全般をさします。

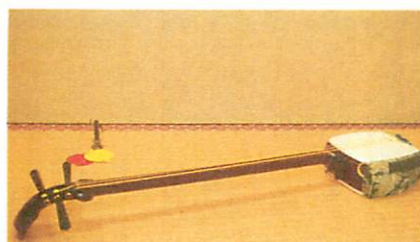
今回は伝統邦楽を楽しむことになりました。伝統邦楽といってもその幅はとても広く雅楽、能楽、浄瑠璃、箏、三味線、尺八、胡弓、そして祭り囃子も邦楽です。

今回は三味線音楽の源流でもっとも繊細優美といわれる一中節いちちゅうせつの家元、都一中先生みやざき いっしやう自ら邦楽の素晴らしさをご指導いただきました。三味線音楽には浄瑠璃や常磐津、清元などありますが、すべての源流が一中節です。

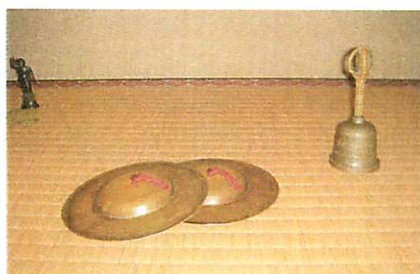
徳川幕府が開かれ時代が落ち着くと日本の文化が豊かに華開させる傑出した芸術家が続出します。

松尾芭蕉が連句から俳句を生み、井原西鶴は「好色一代男」や「日本永代蔵」を著し近松門左衛門は「曾根崎心中」などの名作を上演します。芝居の世界では初代市川団十郎が江戸で歌舞伎（荒事）を始め、初代坂田藤十郎は大阪で歌舞伎（和事）を始めます。さらに竹本義太夫は文楽を始めます。絵の尾形光琳や陶芸の仁清と綺羅星のごとくの才能が響きあう時代。

初代都一中はまさにこの時代に生き活躍しました。



琉球から伝わった三味線
三本の弦から情感豊かな音が紡がれる



仏教の法具も邦楽の世界に取り入れられる



伝統工芸品としても美しい鼓



笛はお囃子などで使う篠笛から能で使う
能管まで沢山の種類が



太鼓は鼓と同じように赤い紐で締めて調
子を調える



鼓の練習 皆初めは何も持たずに形と打ち方の練習

いよいよ鼓を手に持つと皆少し緊張ぎみでした



一中節とは

初代都一中は京都のお寺の跡取りでした。きっと感性豊かな方だったのでしょう。時代の大きな変化や新しい文化の兆しを感じたのでしょうか。

当時まだ珍しい三味線を手に取り、仏教の世界をその情感豊かな三本の弦に巧みに乗せて新しい音楽を編み出しました。

一中の新しい音は都の雅びな人々の心を瞬く間にとらえます。

今ならお寺の跡取りがロックやラップ音楽を生み出したような感じでしょうか。その音楽活動を通して仏教を広めようとした。

そして自らを都一中と名乗ります。この都一中というネーミングにも彼の志の高さが分かります。

一というのには仏教では二つとない唯一の真実、つまり真理ということです。また中はお釈迦さまが説かれた中道の中だと思えます。

お釈迦さまは、身体を痛めつける苦行は大切な命を粗末にする悪しき行為であり、欲を貪り執着する快樂主義も煩惱の悪しき輪廻に自らを落とすから、人はどちらに近付いてもいけない。正しきまん中の道、中道を歩みなさい、と説かれました。



寺子屋真言童子は学ぶ気持ちがある人は誰でも参加できます

今回は5才から86才まで幼少青老の幅広い参加者が楽しく集いました



都一中家元自らの熱心な指導で難しい三味線も音が出るようになり、思わずにっこりする参加者

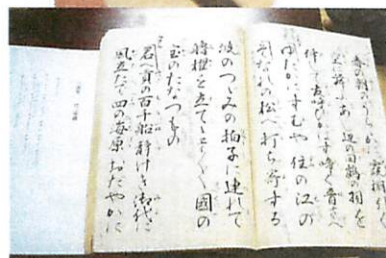
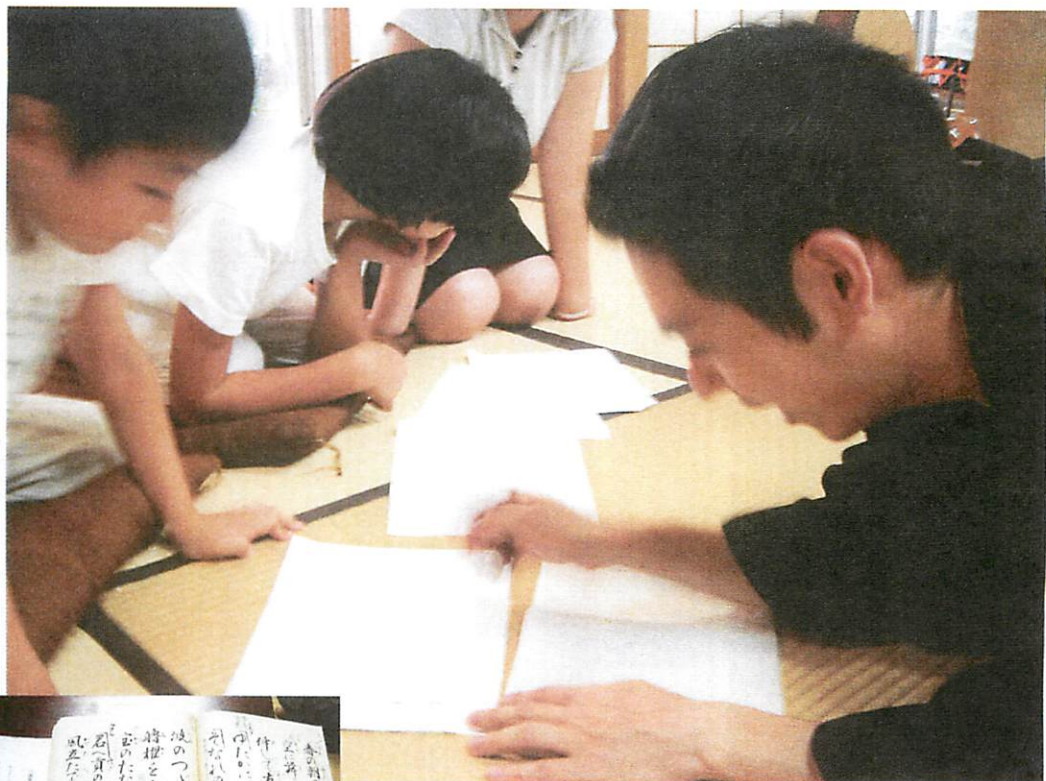


当時まだ珍しかった三味線は初代一中の才能で日本の音楽の正に中心になります。とくに情感豊かな三味線の音は舞台芸術には欠かせない存在となります。歌舞伎も音楽も。

ある意味では三味線の独特な響きや間、リズムから文楽や歌舞伎の名曲、名作を生み出したと言っても過言ではありません。

これほど素晴らしい日本の音楽や楽器に触れる機会はほとんどありません。学校の音楽でも西洋音楽は学べますが日本の音楽はほとんど学べません。ベートーヴェンやモーツァルトやシュープリアを知っていても竹本義太夫や井原西鶴の名前は聞いたことがないという子供の方が多いと思います。

一中節に触れたり初代一中を学ぶと、同時代の近松門左衛門の物語や尾形光琳の絵、そして文楽や歌舞伎にも自然と触れることができます。



左・浄瑠璃の本 上・浄瑠璃の稽古風景

今回は三日間の寺子屋です。

毎朝ご本堂で般若心経を全員でお勤め。

住職の声明の間、参加者は瞑想をします。

都一中家元からのお話。

模範演奏。「道成寺」の素晴らしい演奏に参加者は感動しました。

各楽器の紹介。大太鼓の打ち方一つで雪が降るしんしんとした感じや雷、人の登場、場面転換などを表せるのが良く分かりました。

実践練習。実践は四つのグループに別れますが全員が四つのグループを体験できるようにしました。

三味線

笛

鼓

浄瑠璃

三味線は口三味線といって「チン・トン・シャン」と口で音を表す唱歌を歌って曲を覚えていきます。鼓も笛もやはり音を口で言い表わして覚えていきます。笛なら「オヒャーオヒャーアリ」鼓は「ポンスタスッポン」というように。五線譜に慣れた今の人には楽譜が無いのにびっくり。しかし唱歌を覚える先生達の演奏がその通りに聞こえてきます。

浄瑠璃は「乗合船恵方萬歳」と最終日に全員で行う奉納演奏の演目「三番叟」です。「乗合船恵方萬歳」の笑うところでは全員が本当に大笑い。こんな



皆三日間の寺子屋が無事成功したことに感謝して「三番叟」を奉納しました。



邦楽の曲は仏教が基本になっているものが沢山あります。

模範演奏「道成寺」の後には住職から曼荼羅の説明がありました。

一中節と三味線受講希望の方は
<http://www.itchu.com> へ

に笑ったのは十年ぶりと言う参加者もいました。
 笑う門には福来たりです。皆本当に楽しそうです。
 また「三番叟」のなかの不思議なことは「とうとう
 たりとうたり」はなぜか忘れられないという方
 もいました。
 三日間があつという間に過ぎていよいよ奉納演奏
 です。
 都一中家元から「一度出した音を信じる、信じ切
 ることが大切です。」という素晴らしい言葉をいた
 だき全員一生懸命演奏して素晴らしい奉納演奏がで
 きました。
 「西洋音楽は絶対音（モノ）から調律するのにくら
 べて邦楽器はヒト（ココロ）に合わせていくことに
 とても驚きと誇りを感じた。」という感想もありま
 した。

こころの絵ことば 『キツネの穴』

絵 きらら

ライオンがおなかをすかせてエサをさがしていました。

森中さがしてもエサを見つけれませんでした。

ライオンは川を上って滝のそばまでいきました。不思議とエサになる動物の姿は見つけれません。滝の上は広々とした荒野の入り口でした。

そこに動物の巣だと思える穴がありました。ライオンはあたりの様子をみてから中に入りました。

匂いを嗅いでみました。

どうやらキツネのすみかです。

まだキツネは帰っていないようです。ライオンは考えました。

「もうすぐ日が沈む。そうすればキツネは帰ってくる。ここはひとつ中で待ち伏せといこう。」

日が沈みあたりが暗くなるころキツネは戻ってきました。しかし用心の良いキツネです。自分の穴の入り口の様子をじっと見ました。良く見ると自分のではない足あとがたくさんついています。どうやらライオンの足あとのようです。

キツネは月が出るのをまってさらによく足あとを見ました。すると穴に入ってしまった足あとはあっても穴から出てくる足あとは一つありません。





「なるほどライオンめ、中で待ち伏せしてるな。しかし確かめないと。そうだ。」

「穴くんただいま。」

「おや返事がないな、いつも返事をしてくれるのに。ではしょうがないから他の穴で今日はねることにしようかな。」

それを聞いたライオンは折角の工サがほかへ行つては大変です。思わず「ウオーッ」と声を出しました。

穴にこだましてライオンの声は荒野中に響きました。ライオンが近くにいると分かつて荒野中の動物がいつせいに逃げてしまいました。

ライオンはすずごと森へ帰っていききました。

それを見た用心深いキツネは安心してねぐらに入りました。

道しるべ

フェア
公平ということ

昨年暮れに映画を二本見ました。

『父親達の星条旗』と『硫黄島からの手紙』です。

どちらもハリウッ

ド俳優から映画監督になつて今や不動の地位を築いているクリント・イーストウッドの硫黄島二部作品です。

イーストウッド監督は『許されざる者』と『ミリオンダラーベビー』でアカデミー賞監督賞と作品賞を二度受賞しています。

また俳優としてはテレビドラマ『ローハイド』や『荒野の用心棒』『ダイティーハリー』といった作品が沢山あります。

ハリウッド映画アメリカ映画はヒーローが大好きで、スーパーヒーローが危機や危険な時に登場して事件や危難を救います。

しかしイーストウッド監督作品にはスーパーヒーローは登場しません。映画の中の出来事を淡々と追って



『散るぞ悲しき』 梯 久美子著 新潮社
米軍が五日で終わると言う戦いを
三十六日間戦い抜いた栗林中将の記録

いつて人間の業や世の中の不条理を

浮き彫りにしていきます。

そして見た者の心に生き方を深く問うような気がします。

今回は戦争映画です。しかもアメリカが大勝した第二次世界大戦の大きなターニングポイントの硫黄島が舞台です。

そして一つの戦場をアメリカ側の視点で描いた

『父親達の星条旗』と日本側の視点で描いた

『硫黄島からの手紙』の二部構成です。

どちらもイーストウッド監督らしくどこにもヒーローは出て来ません。そこには戦争という国同士の戦いの中で人生を弄ばれる市井の青年達の姿が淡々と、しかしとてもリアルに描かれています。

イーストウッド監督のアメリカと日本を公平に描き切る度量の大きさと、志の高さが伝わってきます。

また硫黄島の戦いを率いた栗林中

将の人として軍人としてリーダーとしての素晴らしさに感銘しました。

硫黄島で激戦が行われたことは僅かに知っていました。栗林中将のことは全く知りませんでした。

映画を見た後に新潮社から出版されている『散るぞ悲しき』梯久美子著を読みました。

戦争という異常の中でも勝つ可能性が全くない極限状況の中で、部隊を率いていく立場に置かれた指揮官の心の救いが本土に残る家族に宛てた手紙でした。そして本土への米軍の上陸を一日でも遅らせることが、家族が一日でも長く平和にいられると信じての壮絶な戦いでした。

『予は常に諸子の先頭にあり』

『いま日本は戦に敗れたりといえども、日本国民が諸君の忠君愛国の精神に燃え、諸君の勲功をたたえ、諸君の霊に対して黙とうを捧げる日が、いつか来るであろう。安んじて諸君は国に殉ずべし。』

実際に栗林中将は最後に残った四百名の部隊の先頭に立って敵陣に向かいました。

今の日本の大いなる繁栄はこの時代の大きな犠牲の上に成り立っています。

そろそろこの時代の事をもっと冷静に知る機会や語り合える場があっても良いと思います。

日本は古来からコトアゲ（言挙）しない、つまり言い争いをしない国でした。それは言葉との関わりもあります。一度発した言葉の響きが言葉となり場合によっては自らをも傷つけることもあるからです。

ですから智慧ある者は多くを語らないものでした。

しかし最近言葉うるさく自らの権利ばかりを言い立てる者の主張が通る悪しき風潮があるようです。

その一方で世界で活躍する素晴らしい日本の若者も増えています。先日日本が国連に参加して五十周年をお祝いする祝典に招かれました。

短いトークショーがあり、その中で世界の国連機関で活躍する方達が紹介されました。皆紛争地域での選挙活動の支援や医療支援等実に危険かつ劣悪な環境で尽力しています。

こうした人々の地道な努力の積み重ねが世界を平和に導く最も有効な手段だと実感できました。

最近フェアトレードという考え方が広がりつつあります。原料や労働力を安く発展途上国から搾取することなく共に繁栄できる貿易手段が生まれています。

世界も世の中も公平フェアには出来ていませんが少しでも理想に近付けようとする人々の信念こそが公平な社会、平和な世界への扉だと確信しています。

お大師さまの言葉

善人の用心は他を先とし己を後とす 弘法大師

狭い通りで人に道を譲られたり、建物の入り口で前の人が扉を押さえていてくれたりすると、それだけで一日気分が良かったりします。

誰でも自分の年老いた祖父母や知り合いであれば自然と道を譲ったり、階段などで手を貸したり出来ませんが、知らない人だとなかなか同じようには出来ません。

しかし車の運転中、渋滞の道路で道を譲られると気分が良く、逆に割り込まれたりすると、何か損をしたようになるのは普通の人情です。

お大師さまは他の人をまず先に、そして自分は後から進みなさいと説かれています。

それはこの宇宙の万物があつてあなたが生きられるからだ。
常に他に対する感謝と恩を感じる気持ちが大切なのだと。



『ブツダが考えたこと』

宮元啓一著 春秋社



『17歳のための世界と日本の見方』

松岡正剛著

春秋社

今の日本は世界の中で不思議な位置にあるような気がします。政治的には相変わらずアメリカ一辺倒で埋没しています。経済的にも巨大化する中国や急速に台頭するインドやロシアに押されています。学力も落ちてきています。しかし寿司を初めとする和食やマンガやアニメやオタクの文化や「カワイイ」という言葉が世界を席巻しています。

日本はどんな国なのかセイゴウ先生が世界の中の日本をわかりやすく講義してくれます。



『夢のゴルフコースへ』

伊集院静著

学研

先日神奈川の古いコースでプレーしていました。前の組みは何組かの文人コンペでした。前の組みのプレーは後ろからは良く見えます。前の組みで他人のバンカーショットの後をいつも丁寧にならしているプレーヤーがいました。昼食堂に上がるとその前の組みのプレーヤーは作家の伊集院さんでした。

本書は伊集院さんが自らプレーした素晴らしいコースが美しいエッセイによって紹介されています。

宮本卓氏の写真を眺めるだけでも楽しい一冊。



『小学校 国語 副読本』

石井公一郎 萩野貞樹編

PHP

ゆとり教育が見直されました。しかし日本の教育の基本方針がこんなに短い間に変わってしまったのは子供達は大変です。

良い本を読み名文に感動し、歴史上の偉人の言葉を心に刻むことで心を豊かにすることができます。

本書は一つの試みですが忘れていた書や詩や名文が一年生から六年生まで学年ごとに紹介されています。

まず大人が読んでおきたい副読本です。

声に出して読むと素晴らしさがさらに伝わります。



PHOTO F.YOSHINORI

次号 特集 和のとびら

Editor ABE RYUJU Art Director and Photographer/TATSUKI

EDITORIAL OFFICE CHOEN-JI S.H.C

Making Mechanic Printing KORINKAKU

〒157-0076 東京都世田谷区岡本 1-20-1 電話 03-3707-1228 ファクシミリ 03-3707-1221